

Fukuoka City Public Library Movie Hall  
福岡市総合図書館映像ホール

# シネラ

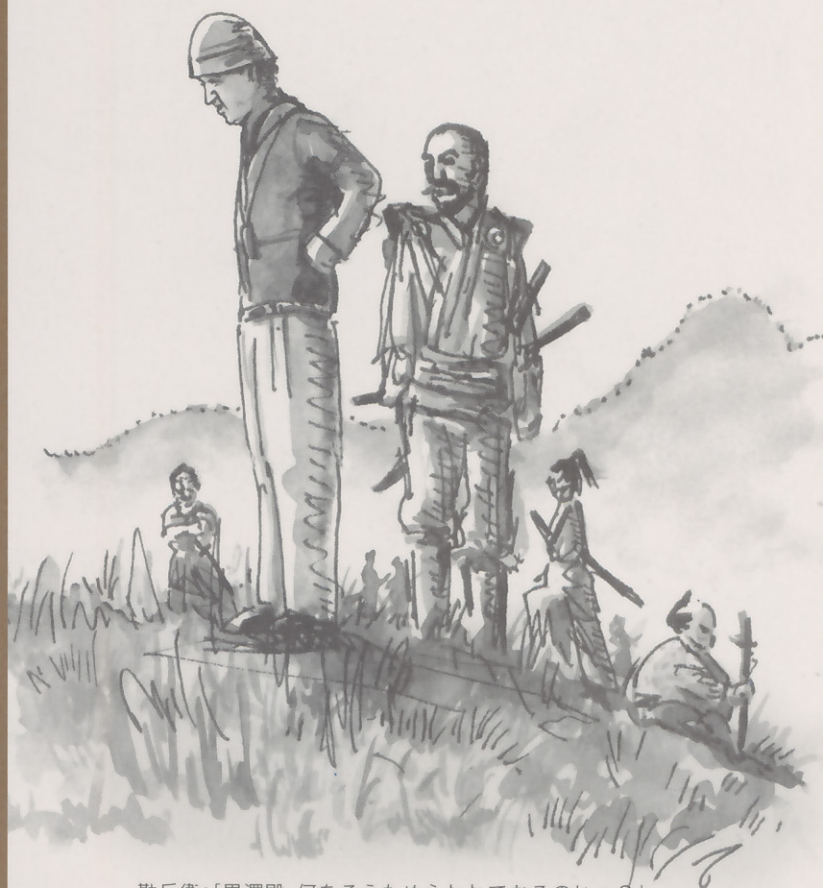
## Ciné-là NEWS

シネラ・ニュース  
April.2000 No.45

# 4

「特別企画」

# 黒澤明の世界



勘兵衛:「黒澤殿、何をそうためらわれておるのじゃ?」

黒澤:「いや、ここまで過酷な撮影になるとは思わなかったもので...」

勘兵衛:「わしらは命を懸けて戦っておる。本物が作りたいのであれば、最後までわしらを撮り続けることじゃ」

そんな侍の声に励まされながら、黒澤明はこの大作を撮り上げたのかと想像してみると、またスクリーンで観たくなった。

イラスト&文:山下良平

【特集】

# 韓国映画の黎明

## 黒澤明の世界

「黒澤明の世界」では、監督デビュー作となる1943年の「姿三四郎」から1954年の「七人の侍」までの監督作品の中から七作品を上映するものです。特に1950年代は戦後の日本映画が隆盛した時期にあたり、黒澤が戦後の日本映画を牽引する一人としてもっとも活躍した時期といえます。

黒澤はドフトエフスキーやトルストイなどのロシア文学を愛読し、一方で映画監督としてはジョン・フォードを敬愛しました。映画界に身を投じる以前は画家を志し、二科展入選やプロレタリア美術同盟出展などの実績もありました。後年、旅客機のペインティングのデザインなども手掛けています。また優れたシナリオライターであり、助監督時代に多くのシナリオを執筆、自身の監督作品のほとんどのシナリオに参加するほか、マキノ雅弘監督で知られる「殺陣師段平」(1950年)の脚色なども手掛けています。黒澤映画のダイナミズムはハリウッドの西部劇に、またドラマツルギー(物語性)や人間観、社会観においてはロシア文学の影響が大きいです。こうした彼の作品は優れた娯楽性と文学性、彼自身の哲学にのっとった人生観、社会観が妥協を許さない力強い映像表現の中に描かれている点が特徴といえます。このため、多くの場合、一つの作品の中に多くの情報と顔を持っています。一方でシンプ

ルで奥深いテーマを好む傾向があり、そのテーマに沿った重厚で多面的な人間ドラマこそ黒澤映画の真骨頂といえるでしょう。こうしたドラマの根底にはヒューマニズムと正義感があり、表現に対する強い意志に触れることが出来ます。いくつかの作品では、このような彼の素養が意識的に突出して表れています。海外文学の翻案で形式美的な「白痴」「蜘蛛巣城」「どん底」「乱」と娯楽に徹し、西部劇の影響が色濃い「隠し砦の三悪人」「用心棒」「椿三十郎」とはこうした彼の表現の両端に位置するものといえるでしょう。また、社会性の強い「わが青春に悔なし」、や「静かなる決闘」「醜聞(スキャンダル)」などから、人間の存在意義を見つめた「生きる」のような作品までが興行のある人間ドラマとして彼の作品に幅を与えています。脚本を複数のシナリオライターと共作し、美術や撮影にこだわり、卓抜した編集のセンスを持った黒澤映画は優れた交響楽のようであり、黒澤はその作曲家であり、指揮者だったといえます。そこでは欧米的なセンスと日本的な緻密さ、情感がハーモニーを奏でながら、シンプルで奥深い主題が語られていきます。こうした彼の作品は、いまなお全世界の人々を魅了しています。黒澤明は1998年、死去。享年88歳でした。

(映像調査員 山本宰)

## 4/26 水 14:00 姿三四郎

1943年/35ミリ/モノクロ/80分/東宝  
原作:富田常雄 出演:藤田進/大河内傳次郎

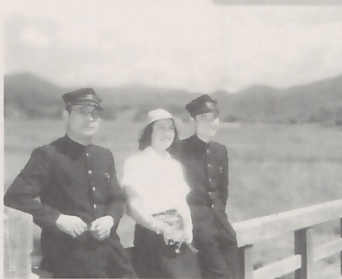
黒澤の監督第一作であり、脚本も自らが執筆している。明治15年、柔術を志した三四郎が、矢野正五郎の門下となり、幾多の試練を経て、柔道のすばらしさを知り、一人前の柔道家になっていく。戦時下の厳しい統制の中で作られたとは思えない骨太な娯楽映画の傑作。



## 4/26 水 19:00 わが青春に悔なし

1946年/35ミリ/モノクロ/110分/東宝  
脚本:久板栄二郎 出演:原節子/藤田進/大河内傳次郎

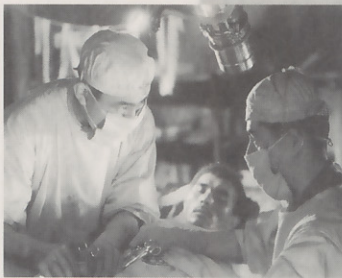
戦前の滝川事件と戦中のゾルゲ事件を下敷きに創作された女性映画。戦後の黒澤明の出発点を示す作品であり、主人公を演じた原節子にとっても戦後の転回点となった作品。戦時中に反戦運動家と結婚し、様々な迫害や偏見の中、信念に生きる女性の姿を描く。労働組合の意向により、後半のプロットが変更されたという。



## 4/27 木 19:00 静かなる決闘

1949年/35ミリ/モノクロ/95分/大映  
原作:菊田一夫 出演:三船敏郎/三條美紀

戦時中、野戦病院の医師として従軍した主人公・藤崎はある男の手術中に梅毒に感染する。この病気に冒されたことを知った彼は、帰国後、誰にも相談せずに一人闘うことを決意し、恋人をも遠ざけてしまう。当時、不治の病であった梅毒をテーマにし、医師としての良心と葛藤を描こうとした作品。



## 特別企画

# 黒澤

## 特集 韓国映画の黎明

朝鮮戦争から復興を始めた、韓国映画の40年代～50年代の作品を特集。

会期:5日(水)～9日(日)

観覧料:500円(大人)/400円(大学生・高校生)/300円(中学生・小学生)

※定員制・各回入替制。 ※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。  
※福岡市在住の障害者の方は無料。福岡市在住の65歳以上の方は半額。(手帳の提示が必要です)

韓国における映画製作は1910年代から始まっており、20年代の無声映画時代には名作と高い「アリラン」等の映画が製作されている。しかし30年代にトーキー映画が普及した後、朝鮮総督府は韓国語の表現を禁止、

### 解放、そして朝鮮戦争後の韓国映画

すべての分野において日本語を強要する。そして映画も軍国主義的な作品が製作される。しかしこれらの作品は現在見ることはできない。50年に始まった朝鮮戦争により、すべて作品が消失してしまったからだ。

今回上映する「自由万歳」はまとまった形で現存する最古の作品と言われており、その資料的価値は計り知れない。韓国映画は最初から日本の影響、もしくは統制下であり、韓国の映画人による完全に自由な映画製作は、45年の解放の日から始まったといつて過言ではないだろう。当時解放の熱気につつまれた作品が数多く登場したことは容易に想像できる。しかし本当に韓国映画産業が自立していくのは、朝鮮戦争以後のことだ。23年から55年まで韓国の映画製作本数は年間3～5本であった。しかし56年には一気に20本を越える。平和の訪れとともに安定した映画製作が可能となり、大衆娯楽としての映画の地位が確立するのが50年代後半なのだ。そして韓国映画は60年代の黄金時代へと突入する。

今回上映する作品は46年の「自由万歳」から58年の「お金」まで、解放から朝鮮戦争を経て黄金時代の入り口まで、着実に成長する韓国映画の姿を垣間見ることができるだろう。

## 自由万歳

5日(水)14:00/7日(金)19:00  
Hurrah for Freedom



日本語字幕付き

1946年/35ミリ/モノクロ/51分/韓国  
監督:崔寅奎(チェ・インギョ)  
出演:全昌根(チョン・チャンゴン)

日本からの独立後、初めて製作された長編劇映画であり、韓国に現存する最も古い映画である。1945年、独立運動に情熱を傾ける主人公ハンジュンと、彼に好意を寄せる女性ミヒャンとヘジヤの物語であり、独立を願う民族の情熱の溢れた作品である。戦争のためか、作品の一部に欠落があり、特に解放の日を描いたラストシーンの行方が解らない。

4/29  
土祝15:00

# 羅生門

1950年/35ミリ/モノクロ/87分/大映  
原作:芥川龍之介 出演:三船敏郎/京マチ子

5/5  
金祝11:00

原作は芥川の「藪の中」。構成や映像表現の中に大胆な実験を数多く試み、戦後の日本映画において最初の国際的評価(ベネチア映画祭グランプリ)を獲得。その後の日本映画を黄金時代に導いた作品といえ、「世界のクロサワ」の第一歩となった、日本映画史上に残る一作。

5/7  
日15:00



4/28  
金19:00

# 醜聞<スキャンダル>

1950年/35ミリ/モノクロ/104分/松竹  
脚本:菊島隆三/黒澤明 出演:三船敏郎/山口淑子

タイトルのとおり、マスコミの過剰なスキャンダリズムに対する批判をテーマとした作品。一方で志村喬が演じる病気の娘を持つ弁護士の人間像を力強く描き出している。山口淑子の息を飲むような美しさ、千秋実、北林谷栄、上田吉二郎など芸達者が脇を固め、黒澤作品としては珍しいのんびりしたムードが漂う作品。

5/3  
水祝11:00



4/28  
金14:00

# 生きる

1952年/35ミリ/モノクロ/143分/東宝  
脚本:橋本忍/小国英雄/黒澤明 出演:志村喬/小田切みき

志村喬が演じる主人公が、雪降る公園のブランコに乗って、「命短し、恋せよ乙女…」と唄うシーンがあまりにも有名なこの映画は、トルストイの「イワン・イリッチの死」に着想を得て構想された。人間の生と死、「生きる」ということの本当の意味を問い、黒澤作品の中でも特に評価の高い作品の一つである。

5/3  
水祝15:00

5/5  
金祝15:00



4/27  
木14:00

# 七人の侍

1954年/35ミリ/モノクロ/207分/東宝  
脚本:橋本忍/小国英雄/黒澤明 出演:志村喬/三船敏郎/千秋実

野盗化した野武士達に苦しめられている農民達が侍を雇い、村を守ろうとする。あまりにも有名なこの映画は、ヒューマニズム、社会性、娯楽性などあらゆるテーマを内包し、昇華したまさに第一級の大作。映画史上屈指の名作としてその評価は不動のものであり、まさに時代を越えた傑作である。

5/6  
土15:00



# 明の世界

日本を代表する巨匠・黒澤明監督の特集

会 期: 4月26日(水)~4月29日(土・祝)  
5月3日(水・祝)~5月7日(日)

観覧料: 800円(大人)  
600円(大学生・高校生)  
400円(中学生・小学生)

※定員制、各回入替制  
※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。  
※福岡市在住の障害者の方、及び福岡市在住の65才以上の方は400円。(手帳の提示が必要です。)

## 心の故郷

5日(水)19:00/8日(土)11:00  
Country of My Heart



日本語字幕付き

1949年/35ミリ/モノクロ/77分/韓国  
監督:尹龍奎(ユン・ヨンギョ)  
出演:崔銀姬(チェ・ウニ)

幼くして山寺にあずけられた少年トソンは、厳しい修行の中でソウルから母が迎えに来る日を待っていた。ところがある日、子供を亡くして寺に供養に来た女性がトソンを養子にしたいと申し出る。少年の心を叙情的に描いた文芸作品であり、47年にデビューした大女優チェ・ウニが一躍有名になった映画でもある。

## ピアコル

6日(木)14:00/8日(土)15:00  
The Valley of Pia



日本語字幕付き

1955年/35ミリ/モノクロ/107分/韓国  
監督:李康天(イ・ガンチョン)  
出演:金振奎(キム・ジンギョ)

朝鮮戦争停戦後、パルチザン(非正規軍)掃討作戦に参加した作家のキム・ジョンファンと監督のイ・ガンチョンが、パルチザンの記録や手記などを基にして製作した問題作。パルチザンとして戦いながらも、共産主義の矛盾に苦悩する主人公を通して、イデオロギーと人間の葛藤を描き、検閲を通過するまでに3か月もの期間を要するなど社会的にも大きな話題となった。

## 嫁入りの日

6日(木)19:00/9日(日)11:00  
The Wedding Day



日本語字幕付き

1956年/35ミリ/モノクロ/78分/韓国  
監督:李炳逸(イ・ビョンイル)  
出演:趙美鈴(チョ・ミリョン)

下級役人の娘カッパンは、高級官吏の息子であり学問にも優れたミオンと婚約していた。ところがある日、男がカッパンの家を訪れ、ミオンは足が不自由であると告げる。悩んだカッパンの両親は、花嫁の身代わりを仕立てようとする。日本占領時代に発表された文学を原作とした民話的なドラマであり、社会の矛盾を風刺したコメディである。

## お金

7日(金)14:00/9日(日)15:00  
Money



日本語字幕付き

1958年/35ミリ/モノクロ/137分/韓国  
監督:金蘇東(キム・ソドン)  
出演:金勝鎬(キム・スンホ)

農民ボンスの息子ヨンホは幼なじみのオッキョンと結婚するつもりだった。ボンスは結婚費用や借金の返済のために、米を高利貸しのオクチョに売るが、オクチョにお金をだまし取られてしまう。そしてオクチョはボンスとの争いの中で、自らのナイフで傷つき死んでしまう。朝鮮戦争後の荒廃した農村の中で、貧しさ故に破壊していく農民達の姿をリアリズムで描いた作品。

## 資料の整理と展示

シネラやビデオライブラリー、ミニシアターなどを管理運営している福岡市総合図書館映像資料課は映画フィルム、映像資料の収集保存とシネマテークの実施の他に、映画に関するその他の資料も保存、整理しています。ここでいう「その他の資料」というのはチラシやポスター、書籍、雑誌などの紙資料、映画機材などの物質資料などを指します。こうした資料は「副次資料」と呼ばれ、封切り当時の映画の興行の実態や、製作の実態などを研究する上で重要な資料となり、フィルム・アーカイブとしてフィルムの保存と併せて行うべき、重要な仕事の一つです。そのため開館前からアジアフォーカス・福岡映画祭や個人、団体の寄贈を積極的に受け入れ、整理し、ギャラリーや映像ホール・シネラのエントランスでの展示という形で公開してきました。しかし、資料数が膨大で整理が追いついていないのが現状で、個々の資料の細かい把握はもとより、資料ごとの目録の作成もまだ半ばです。実際の整理の仕方なども模索して

いる段階です。最終的には映画研究に役立ててもらうために、広く一般に公開すると同時に、未来に残していけるように紛失、破損などないようにしなくてはなりません。映像資料課が図書館内にあるため、収集した資料を図書のような形で公開すればと考える方もいらっしゃると思いますが、資料を受け入れたときの状態で保持出来るように管理し、紛失や破損などの危険が伴わないような形で利用していただきたいと考えています。そのため、現段階では年に一度程度の展示の機会に整理のついたものから公開しています。このとき外部から資料を借りたり、パネルなどを製作して合わせて展示し、歴史的、文化的な視点から映画を理解していただけるように企画しています。

副次資料の整理や保存、公開などは映像資料課が抱えるこれからの課題です。皆様に温かい目で見守っていただければと考えています。

(映像調査員 山本 幸)

## お知らせ

## ミニシアター

## A Fish Called Wanda

1988年/カラー/108分/日本語字幕なし  
監督/チャールズ・クライトン/Charles Crichton  
出演/ジョン・クリース/John Cleese  
ジェイミー・リー・カーティス/Jamie Lee Curtis  
ケヴィン・クライン/Kevin Kline  
マイケル・ペイリン/Michael Palin ほか

現代の英国映画の中でも代表的なコメディ映画の一つ。ロンドンを舞台に強烈なキャラクターを持つ人物4人による「ダイヤモンド強盗計画ストーリー」。それぞれお互い仲間を何とかだまして、ダイヤモンドを独り占めしようとするのだが...

日時: 4月22日(土) 14:00~

会場: 福岡市総合図書館ミニシアター  
観覧料: 無料

お問い合わせ/092-752-3750 プリティッシュ・カウンシル福岡

## ビデオ編集技術研修室のご案内

ビデオ研修室では、家庭で撮影された8ミリビデオや各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料 1時間500円、連続使用3時間迄、デジタルビデオの編集は不可)

※詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

## 黒澤明と四騎の会

1969年に邦画の巨匠監督(黒澤明、木下恵介、市川崑、小林正樹)が「四騎の会」を結成。4人が共同で脚本を執筆し、自分の好きな部分を演出するという方式だった。故黒澤明監督の夢は、紆余曲折の末に市川崑監督に引き継がれ、山本周五郎原作(町奉行日記)の「どら平太」(主演:役所広司)として5月13日から一般公開(東宝系)されます。今回の黒澤明監督特集と併せてお楽しみ下さい。



「どら平太」

## 各団体の自主上映

● 4月1日(土) 10:40/14:20

## 「金環蝕」

観覧料/1,000円(当日のみ)

主催/ W.L.C 福岡

(Tel.092-741-7687 瓜生史郎)

● 4月2日(日) 11:30/14:00

## 「メフィストの誘い」

観覧料/当日 1,800円 前売り 1,500円

中高生・シニア 1,000円

主催/福岡映画サークル協議会

(Tel.092-781-2817)

※自主上映の詳細については、直接主催者にお問い合わせ下さい。

## シネラNEWS送付のご案内

定期購読ご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしております。購読を希望される方は、平成12年5月号~平成13年3月号までの郵便切手(90円×11月)を同封の上、下記宛先へお申し込みください。

宛先: 〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-7-1  
福岡市総合図書館 映像資料課

## あなたが選ぶシネラ映画ベスト5のアンケート結果

平成12年1月8日から25日までの期間、中央区天神の情報プラザで映画ベスト5の人気投票アンケート(平成11年中にシネラで上映した作品を対象)をしました。その結果は次の通りとなりました。

1位「東京物語」、2位「椿山節考」、3位「街の灯」、4位「セブンイヤーズインチベット」、5位「二十四の瞳」

以下、「慕情」「戦場にかける橋」「つきせぬ想い」「喜びも悲しみも幾歳月」と続きました。あなたのお好きな映画はありましたか。



「東京物語」

4月

1 土

2 日

3 月

4 火

5 水

6 木

7 金

8 土

9 日

10 月

20 木

21 金

25 火

26 水

27 木

28 金

29 祝 土

30 日

5月

1 月

2 火

3 祝 水

4 祝 木

5 祝 金

6 土

7 日

自主上映「金環蝕」

自主上映「メフィストの誘い」

休 館 日

休 映 日

|                |                |
|----------------|----------------|
| 14:00<br>自由万歳  | 19:00<br>心の故郷  |
| 14:00<br>ピアコル  | 19:00<br>嫁入りの日 |
| 14:00<br>お金    | 19:00<br>自由万歳  |
| 11:00<br>心の故郷  | 15:00<br>ピアコル  |
| 11:00<br>嫁入りの日 | 15:00<br>お金    |

福岡市総合図書館は、  
特別整理・点検のため、  
休館します。

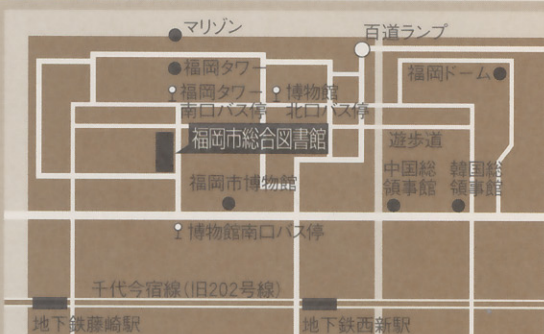
映像ホールシネラは、  
施設設備・フィルムの  
定期点検のため、  
休映します。

月 末 休 館 日

休 館 日

休 映 日

|                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| 11:00<br>醜聞<スキャンダル> | 15:00<br>生きる      |
| 11:00<br>姿三四郎       | 15:00<br>わが青春に悔なし |
| 11:00<br>羅生門        | 15:00<br>生きる      |
| 11:00<br>静かなる決闘     | 15:00<br>七人の侍     |
| 11:00<br>姿三四郎       | 15:00<br>羅生門      |



交通アクセス: 当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

地下鉄: 西新駅または藤崎駅から徒歩15分

西鉄バス: 天神~都市高速経由~福岡タワー南口

(所要時間 昼間で約20分)

博多駅~都市高速経由~福岡タワー南口

(所要時間 昼間で約25分)

福岡タワー南口バス停から徒歩3分

いずれも、昼間は10~15分間隔で運行されていますので大変便利です。お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。

## 編集雑誌

今月の黒澤明の世界は、開館時から企画したいと思いつくよう、くちくちかかった特別企画である。黒澤監督の拘りに魅了された一人として、絶対に休みをとって観客席に座りたいと思っている。また、今月の韓国映画特集は、韓国映画の原点が垣間見える秀作ばかりである。個人的には侵略という愚かな行為を自戒する意味からも「自由万歳」を是非観たい。(H I)

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là

福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表)092(852)0600 映像資料課092(852)0608 Fax.092(852)0609

福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>